

別冊

おいしいだものがり

～資料館資料編～ ■「大石田雛人形展」より

資料館では「大石田雛人形展」を開催中ですが、今回は一つ一つの雛人形を取り上げるのではなく、「大石田の雛人形『群』」として考えてみたいと思います。

現在資料館の展示室には、江戸中期の「元禄雛」をはじめ、複数の「享保雛」、そして江戸後期の「古今雛」、さらに明治・大正期の雛人形が一堂に会しています。ご存じの通り享保雛は古今雛よりも古い様式の雛人形ですが、この享保雛の中にも、肘を張って堂々とした姿勢の享保雛から、なで肩で袖を垂らす柔和な表現の享保雛まで、好み・流行の変遷を物語るものが揃っています。古今雛でも、玉眼が嵌められた関東式の古今雛やまぶたを彫り込む関西式の古今雛、さらには関西式でも玉眼が嵌められるようになった頃の古今雛など、ここにも時代の流れを窺わせる要素が見て取れます。また明治以降の古今雛でも、化学染料が使われた色鮮やかで若々しい人形があるかと思えば、根強く天然染料で染めた衣装を纏う復古的な人形もあります。この豊富なバリエーションは大石田の雛人形それぞれが各地・各時代に顕著な様式を示していることに由来します。

昨年のこの小欄では、昭和中期でさえ雛人形を飾って節句を祝う風習は全国的に3割程度だったことを紹介しました。これが江戸時代の、さらに文化の先進地である江戸や京都から遠く離れた地方においては、より低い割合ではなかったかと思われます。しかし上記のように雛人形群として俯瞰してみると、大石田には上方や江戸から途切れることなく雛人形が流入していたことがわかります。なぜこのように、地方において決して文化的なメインストリームとはいえなかったであろう雛人形を継続的に受け入れてきたのでしょうか。それはきっとこの地にとって雛人形や「お雛見」が特別な意味を持っていたからだと考えられます。特に雪深い大石田においては、月遅れの4月3日に雛人形を飾って人を招くことが、長い冬の終わりと遅い春の訪れを告げる重要な儀式であり、節目を区切るハレの日としての機能を果たしていたのでしょう。そのためにかつて商家では雛人形を買い求め、お雛見の風習と共に代々大切に受け継がれた結果、200年以上経過した今日でも十分鑑賞に堪える人形たちが「群」として大石田に残されているのです。(大石田町立歴史民俗資料館 大谷 俊継)



日本遺産「山寺と紅花」関連企画展「大石田雛人形展」は4月3日(木)まで



大石田町公式アカウント開設

LINEはじめました

防災情報や各種行政情報を
受け取ることができます。

友だち登録を
お願いします！

登録方法

右の二次元コードを読み
取って友だちに追加して
ください。



大石田町公式LINE

防災放送の内容を 電話で確認できます

防災放送が聞き取りにくい、放送内容を確認したい等のご意見をいただき、町では防災放送確認ダイヤルサービスを開始しました。

このダイヤルは定時(夕方6時のメロディ等)放送を含め、直近の放送から8時間以内の内容を順次聞くことができます。

確認ダイヤル：0237-48-8444

■総務課総務グループ Tel.35-2111 (内線218)

町の人口 令和7年3月1日現在

世帯数	2,210戸	(－7)
総人口	5,940人	(－22)
男	2,961人	(－12)
女	2,979人	(－10)

(2月中の異動)

出生	0人	転入	0人
死亡	16人	転出	6人

※この人数は外国人も含めたものです。